

ニセツマアカヒメテントウと比べると、体形はより短くて丸みが強く、また上翅は左右それぞれに、翅端部の橙色紋の前縁が前方へ弧状に突出することで区別できるが、♂交尾器の形態による区別の方が確実である(図2-3)。本種のサイフォは基半部がニセツマアカヒメテントウのものより大きな輪を描き、中間部が膨らみ、その先は細くてわずかに波曲し、先端部は腹側が斜めに裁断状で、鋭く尖る。包片の中央片は、ニセツマアカヒメテントウでは側縁が弧状であるのに対して、本種では両側平行で、先端部は単純な三角状に尖る。また、♀の貯精嚢の形態にも相違が認められた(図4)。

なお、筆者はニセツマアカヒメテントウを稲城市内各地で多数確認しているが、もうひとつの近似種ツマアカヒメテントウ *S. (P.) dorcatomoides* Weise, 1879 は見出していない。この種も普通種とされることが多いが、実は東京近辺では少ないものかもしれない。松原(2003)も「関東南部の平地では前種(引用者注:ツマアカヒメテントウ)よりも本種(引用者注:ニセツマアカヒメテントウ)の方が多く思うが、同定が難しいため正確な記録の蓄積が十分できていない」と述べている。今後、オオタツマアカヒメテントウを含めた3種について、正確に同定し、同定の根拠を明示した記録の蓄積が必要であろう。

末筆ながら、文献の提供、種々の情報提供、写真の撮影などで御協力いただいた柏崎昭、北野峻伸、前原和雄、松原豊、中村涼、西野洋樹、阪本優介、鈴木茂、高井泰、辻雄介、山崎裕志の各氏に厚く御礼申し上げます。

#### 引用文献

- 林 成多, 2011. 島根県産甲虫目録(2011). ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (4): 1-161.
- 稲畑憲昭, 2001. 兵庫県からのテントウムシの記録. きべりばむし, 29(1): 50.
- 亀山 剛・西 真弘・中村慎吾, 2009. 江の川の昆虫類 2004年の調査結果. 比和科学博物館研究報告, (50): 1-219.
- Kamiya, H., 1961. A revision of the tribe Scymnini from Japan and the Loochoos (Coleoptera: Coccinellidae) Part II. Journal of the Faculty of Agriculture, Kyushu University, 11(3): 303-330, pl. 39.
- 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編, 1985. 原色日本甲虫図鑑(III). x + 500pp. 保育社, 大阪.
- 京都府自然環境保全課編, 2015. 京都府レッドデータブック別冊(京都府自然環境目録). 415 pp. 京都府自然環境保全課, 京都.
- 松原 豊, 2003. 東京都のテントウムシ科. Leptalina, (151-156): 621-644.
- 長島聖大, 2017. 伊丹市のテントウムシ科(コウチュウ目). 伊丹市昆虫館研究報告, (5): 39-43.
- 日本環境動物昆虫学会編, 2009. テントウムシの調べ方. 148 pp. 文教出版, 大阪.
- 大塚健之, 2010. 2010年までに広島県内各地で採集した甲虫

の記録. 広島虫の会報, (49): 33-44.

- Sasaji, H., 1971. Coccinellidae (Insecta: Coleoptera). Fauna Japonica. ix + 340 pp., 16 pls. Academic Press of Japan, Tokyo.
- 佐々治寛之, 1991. 馬場金太郎博士採集の日本各地産テントウムシ科甲虫標本. 越佐昆虫同好会々報, (71): 33-36.
- 佐々治寛之, 1996. 絵解き検索によるテントウムシ類の見分け方. 日本環境動物昆虫学会編, 環境アセスメント動物調査手法 6, pp. 27-56. 日本環境動物昆虫学会, 大阪.
- 佐々治寛之, 2002. 広島県のテントウムシ科の分布記録(4). 比和科学博物館研究報告, (41): 105-109.
- 鈴鹿市環境部環境政策課編, 2008. 鈴鹿市の自然. 802pp. 鈴鹿市環境部環境政策課, 鈴鹿.
- 鈴木 茂, 2014. 岡山県の甲虫. <https://okayamacoleoptera.jimdo.com> (2018年7月25日アクセス)
- 高橋 敏, 2015. テントウムシ科. 初宿成彦編, 大阪市立自然史博物館 所蔵甲虫目録(4), pp. 71-145. 大阪市立自然史博物館, 大阪.
- 山口県立山口博物館編, 1988. 山口県の昆虫. 197 pp. 山口県立山口博物館, 山口.

(伊藤 淳 183-0012 府中市押立町 5-1-25)

#### 【短報】沖永良部島におけるコメツキムシ科甲虫2種の記録

筆者の一人、内藤は2017年4月に沖永良部島で甲虫類の調査を行った。採集したコメツキムシ科甲虫のうち、ハナコメツキ亜科に所属する2種が未記録であるので、同島初記録として報告する。標本は有本が保管している。

#### 1. オキナワオオハナコメツキ *Platynychus loochoensis* (Kishii, 1979)

1♂. (図1), 鹿児島県大島郡知名町沖泊キャンプ場, 20. IV. 2017, 内藤準哉採集.

広葉樹の地上 3.5 m 位の枝の叩き網で得た.

本種の既知産地は奄美大島, 喜界島, 徳之島,



図1-2. リュウキュウオオハナコメツキ (1) とタムラハナコメツキ (2) .

沖縄本島, 渡名喜島, 石垣島, 西表島で与那国島からの記録がないのは興味深い。

## 2. タムラハナコメツキ *Displatynychus tamurai* (Kishii, 1974)

1 ♀ (図 2), 鹿児島県大島郡知名町沖泊キャンプ場, 20. IV. 2017, 内藤準哉採集。

上記種と同所で採集した。本種の既知産地は奄美大島, 喜界島, 徳之島, 沖縄本島, 渡名喜島, 渡嘉敷島, 石垣島, 西表島, 波照間島, 与那国島である。

上記2種は南西諸島では広く分布が知られているが, 奄美諸島では沖永良部島と与論島で記録がなかった。形態は奄美大島および沖縄島の個体と比較したが, 差異は認められなかった。

### 引用文献

- 有本晃一, 2016. 西表島, 波照間島におけるタムラハナコメツキムシの記録. さやばねニューシリーズ, (21): 35.  
 大平仁夫, 1999. 日本産ヒメハナコメツキ属の種について. 比和科学博物館研究報告 (38): 349-355.  
 大平仁夫, 日本産オオハナコメツキ属の種について. 比和科学博物館研究報告 (38): 357-362.

(内藤準哉 260-0001 千葉市中央区都町 1-48-16)  
 (有本久之 558-0052 大阪市住吉区帝塚山西 3-4-21)

### 【短報】神奈川県でオオシモフリコメツキの縦縞紋様の変異個体を採集

筆者は, 大変珍しいと思われるオオシモフリコメツキ *Actenicerus orientalis* (Candèze, 1889) の縦縞紋様を現した変異個体を神奈川県にて採集したので, ここに報告する。



図1-2. オオシモフリコメツキの縞紋様型変異 (神奈川県産)。

1 ♂, 厚木市荻野市谷, 12. III. 2018, 筆者採集, 有本久之保管。

体長は 16.5 mm 程で, 図 1-2 に示した通り明瞭な縦縞紋様があり, 光の当て方を変えても通常の霜降り紋様は現れない。

採集地は, 厚木市立こどもの森公園の北側に位置する荻野の里山にある湿地化した休耕田である。谷戸の最奥部の湧水流に近い場所のコケを剥がしたところ, 越冬中の本個体を発見した。越冬室のような隙間は見当たらず, 頭部を上向きにして土中に刺さっているような状態で見つかったのが印象的であった。

標本を検したところ, 上翅の斑紋以外は大平 (2005) に記載されたオオシモフリコメツキの特徴と一致しているように見え, コメツキ類の専門家である有本久之氏に種同定を依頼したところ, 斑紋以外の触角や交尾器等の特徴を踏まえて総合的に判断し, やはり, オオシモフリコメツキであるとの同定結果を得た。

*Actenicerus* 属は世界で 37 種が知られ, 特に日本では種分化が進み, 26 種の固有種が知られている (Oba *et al.*, 2015)。本属の種の多くは上翅に複雑な紋様の毛斑を有し, その紋様の現れ方は種内でも個体差があるが, 縞紋様のような整然とした紋様の変異の記録は, 少なくとも邦産種では知られていないと思われる。一方, 欧州に広く分布する *A. sjaelandicus* は, 通常の霜降り型に加えて, 特に東欧では縦縞紋様型も知られており (Mertlik & Dušánek, 2018), その紋様は今回の採集個体と非常によく似ている。紋様の不規則化や消失ではなく, 整然とした縞紋様が変異として稀に出現するという現象は一見理解しがたく, いかなる遺伝子的機序によるものなのか, また, *Actenicerus* 属以外の分類群でもそのような変異の例があるのか等, 大変興味深いところである。専門家による今後の研究に期待したい。

末尾ながら, 標本の種同定を引き受けて下さった有本久之氏に厚くお礼申し上げる。

### 引用文献

- Mertlik, J. & Dušánek, V., 2018. Elateridae (旧北区のコメツキムシに関する専門ウェブサイト). URL: <http://www.elateridae.com/> (2018年9月4日アクセス)。  
 Oba, Y., Ôhira, H., Murase, Y., Moriyama, A., and Kumazawa, Y., 2015. DNA Barcoding of Japanese Click Beetles (Coleoptera, Elateridae). PLoS ONE, 10(1): e0116612.  
 大平仁夫, 2005. 日本産シモフリコメツキ類の形態について (3). 南紀生物, 47(1): 11-13.

(齋藤孝明 243-0005 厚木市松枝 1-12-15-402)